

中川 雅也 さん

和歌山県田辺市
株式会社中川 創業者兼従業員

木を切らない林業で山を蘇らせる 人材育て林業を自由におもしろく



植栽など造林作業に特化した育林業者。機械の投資が必要な素材生産ではなく、育林作業に注力することで効率的な経営を実現した。高賃金と実働6時間のフレックスタイム制を実現、やりがいのある職場をめざす。地域社会を巻き込み、子どもたちの拾ったドングリから苗木を育て、広葉樹の森づくりにも取り組む。自称「創業者兼従業員」の夢を聞いた。

造林など育林作業に特化

「木を切らない会社」と自称しています。何をされる会社ですか。

中川 私どもは育林業者です。林業には、苗木を植える「植栽」、植栽木に日光が当たるように雑草木などを刈り払う「下草刈り」、節のない木材の生産のために立ち木の枝を刈り落

とす「枝打ち」、樹木の成長に応じた一部の植栽木を伐採し、立木密度を調整する「間伐」、そして木を切る「伐採」など多くの作業があります。当社は植栽から間伐までの育林作業を、請け負ったり受託したりしています。山林を所有する山主さんから伐採ま

でを頼まれることもあります。その場合は伐採業者に外注します。年間の作業は、植栽が97％、下草刈りが100％、間伐が154％です。山主さんから管理を頼まれている山林面積は合わせて3000％の

のほりです。1％当たりで管理費をいただく作業もあれば、特定の作業について対価をいただく場合や、一切お金をいただかない場合もあります。

中川 無償で作業するのですか。山主さんからはいただきませ

んが、国や和歌山県は造林補助金を用意しています。山主さんが皆伐後に、費用と労力のかかる植栽をせず放置することが問題となっていますが、こうしたことが増えると、土砂崩れや洪水など災害を誘発しかねないので、国と県が造林に助成しているのです。当社はその補助金で作業をします。補助金の額は作業の種類によって変わりますが、和歌山県の場合、7割弱の水準ですから赤字の作業になります。

それは困りませんか。

中川 当社では毎年6人の新人を採用して、従業員約半数はスキル（作業技術）が未熟です。会社には彼らを一人前に育てる使命があると考えています。このため無償で仕事を

受託し、彼らのスキルを磨く人材育

成の場に活用させてもらっています。一方で、植栽や下草刈りなど育林作業に特化している当社には、スキルの高い優秀な従業員がいます。山主さんから対価をもらって受託する作業では、効率よく作業することで、しっかりと利益を確保しています。無償の仕事自体は補助金をもらっても赤字ですが、トータルとして会社は黒字をキープできるのです。

売上高は、どのくらいですか？

中川 2020年3月期は約2億1000万円でした。補助対象作業は赤字ですが、有償で請け負った作業で利益を上げているので、トータルでは2000万円の税引き前利益を確保しました。

支出では、現場で働く作業員に9200万円、社会保険料など管理



ウバメガシの苗床を持つ中川雅也さん=本社協の苗床で

Profile
 なかがわまさや
 和歌山県田辺市生まれ。37歳。京都産業
 大学卒業。貿易商社勤務時にインドネシ
 アに駐在経験をもつ。帰国後、森林組合
 に転職し8年勤務。2016年に育林会
 社「中川」を設立し、17年から本格的に稼
 働。和歌山県商工会議所青年部連合会会
 長。

Data
 株式会社 中川
 2016年創業。伐採作業を除く植栽や
 下草刈り、枝打ちなどの育林（造林）作業
 を専門とする会社。創業者は中川雅也氏
 だが、代表取締役は母の文恵氏が務める。
 「熊野の森再生事業」が「グッドデザイン
 賞2020」を受賞。資本金9000万円。
 売上高2億1000万円。従業員21人。

費に1700万円など、人件費に合
 わせて1億1000万円充てていま
 す。従業員は21人ですから、1人当
 たりの平均は500万円です。全国
 の林業従事者の平均年収は200〇
 300万円といわれているなかで、
 比較的高い給料を払っています。

林業でもフレックスタイム制

——その分、仕事はきついのでは
 ないですか？

中川 林業の作業で一番きつく危険
 なのは伐採です。また、現在では伐

採のために大型機械を導入しなけれ
 ばならず、多額の設備投資が必要で
 す。しかも、複数でチームを組んで
 作業しなければならぬので、自分
 の都合で休むことは難しい。

当社が伐採を請け負わず育林作業
 に特化したのは、設備投資負担を軽
 くしたいのと、自分の都合を優先し
 き、休みの取りやすい作業に限定し
 たことからです。植栽から間伐ま
 での作業は、伐採と比べきつい作業
 ではありません。

当社の給料は日給月給制です。新

入社員の日給は8000円で、月に
 20日働くと16万円です。4年目ぐら
 いに一人前になると日給は2万円で、
 月給は40万円になります。

それに、実働6時間のフレックス
 タイム制です。朝9時に出勤したら、
 昼に1時間の休憩を入れ、夕方4時
 には終わります。いろいろ試してみ
 て、実働8時間にすると、週の後半
 には疲れてきて作業効率が悪くなる
 ことがわかりました。ケガも心配で
 す。事務の従業員にも適用し、帰り
 に美容院にも行ける（笑）ゆとりあ

る勤務体系を実現しています。

社長にならない理由

——「創業者兼従業員」という肩書
 がユニークです。

中川 私が社長や取締役と名乗ると、
 従業員が発言しにくいのではないか
 と思うのです。毎日現場に出てみん
 などと一緒に働いていますから、私自
 身もフランクに話せる環境が欲しい。
 そう考えて、2016年8月の創業
 時、代表取締役には母に就いてもら
 い、取締役は親戚に頼みました。お
 かげで、従業員は私に対し敬語を使
 わず、ため口をきいてくれます。

——でも、実質的な社長は、雅也さ
 んですよ。

中川 経営は確かに任されていてま
 すが、決裁権は持っていません。社
 長である母に「あなたはそう言うけ
 れど、まわりの従業員はそう言うて
 ないわよ」と言われ、決裁書が却下
 されることもままあります。たとえ
 ば、人を雇うとき、現場の班長が49
 %、取締役2人が49%の権限を持ち、
 私には2%しかありません。両者の
 意見が割れたときにだけ、私に決定
 権が回ってきます。

私が取締役に就くのは、あと10年
 くらい先でしょうね。家族会社から
 脱するため、2年後には外部の人に

社長になってもらう予定です。現在は「取締役の役員報酬は、新入社員より安くする」という規定が設けてありますが、外部から役員を迎えるときは変えるつもりです。

ちなみに当社では、すべての従業員がお互いの給料を知っています。一番給料の高い人は、4人いる現場の班長で、私もその一人です。

子どもの一言で起業決断

—— 家業はガソリンスタンド経営と聞きました。なぜ林業の分野に進出したのですか？

中川 大学卒業後、地元のホテルに就職し、インドネシアの現地工場に出向した後、地元に戻ってきました。それまで林業に関心があったわけではありませんが、たまたま地元の新聞の求人広告を見つけて応募し、西牟婁森林組合に8年勤めました。

ところが、3歳になる息子に「お父さんは、いつ遊んでくれるの」と言われてしまったのです。その一言で、子どもと遊ぶ時間をつくれる仕事に転職しようと決意しました。家業のガソリンスタンドは、お客さん優先のサービス業で時間の自由が利きそうもなく、第一次産業がいいと考えました。しかし農地を確保できず、結局、林業にしました。

すると、まわりから「ガソリンスタンドでもうかつているから、道楽で林業をやるんだろ」という声が聞こえてきて、創業者の祖父が亡くなったのを機にガソリンスタンドを廃業し、林業に専念することにしました。

—— それはずいぶんと思いい切りましたね。

中川 林業は衰退してダメな産業と見る人がいますが、私はそうは思いません。和歌山県では皆伐された林地の4割しか植栽されず、切りっぱなしなのは林業の先行きが暗いからだといわれていますが、私は6割も残った仕事を残っていて、ビジネスチャンスが多いと捉えています。

緑の山が育っているから、豊かな自然が残る、おいしい水が飲める。いまある「あたりまえ」を後世に残す仕事をなりたいにできるのは、なんて素晴らしいんだと思っています。

地域を巻き込む山づくり

—— グッドデザイン賞2020を受賞しました。

中川 「熊野の森再生事業」のことですね。森林の保全に賛同する地域の企業10社が、耕作放棄地や空き地で育てたウバメガシの苗木を当社が買い取り、協賛企業とともに植栽す

る事業です。苗木のドングりは地域の子どもたちが拾い、山の管理は当社が担います。

駅前のホテルや工務店、自動車教習所、米卸、表具店、薬局、内装会社などさまざまな地元企業が参加しました。地域の緑化に協力することで企業イメージの向上が期待できます。また、Boku Mokuというプロジェクトにも参加しています。

スギノアカネトラカミキリという虫に食われた木材やフシの多い木材を、テーブルなどの家具に加工する事業です。地域の製材所や木工所、建築士、家具店、グラフィックデザイナーなど、普段から木材を扱い、山について詳しい各分野の専門家が連携し、取り組んでいます。

林業を自由に、おもしろく

—— 今後の夢は？

中川 会社のスローガンでもある「30年後の和歌山に豊かな山を」です。その実現のために「育林は育人」を社訓としています。植栽放棄地をゼロにし、健全で豊かな山をつくるために必要な匠の集団を育てるには、山が必要です。当社が無償で山を管理するのは人を育てるためで、これが、当社のビジネスモデルの根幹となる考え方です。

また、「林業を自由に、おもしろく」というスローガンを掲げています。高賃金、6時間のフレックスタイム制を採用したのもその一環ですが、労働を苦しいもの、お金を稼ぐためがまんするものにしたくありません。今日は自分の好きなように自由に働けたとか、明日はおもしろいことがありそうとか。そんなワクワク感やドキドキ感のある仕事にしたいのです。

—— 広葉樹林も手掛けているそうですね。

スギやヒノキだけではなく、備長炭の原料になるウバメガシなど広葉樹林の山も増やしていきたいのです。20〜30年後に切り、備長炭の原木として売ることができます。しかも萌芽更新といって、切り株からひこばえが出てくるので、再植栽の必要がありません。手をかけなくても持続可能な里山ができるのです。

さらに、ドングリの実る広葉樹の森を増やせば、それを食べにくる野生動物も増えます。山に多様性を取り戻せれば、豊かな里山ができて水が蓄えられ、住みたくなる地域が生まれます。そんな山づくりをなりたいにできれば、人生を楽しく豊かに過ごせると私は思っています。

(ジャーナリスト 村田 泰夫)

